

学級開きでコミュニティボールを作ろう

インテレクチュアル・セーフティ 知的安全を創っていこう！

金澤正治

始業式の日には自己紹介の宿題が小学校ではよくあります。
中には、春休みのしおりに宿題として自己紹介を考えると書かれていることもあります。

「自己紹介を考えてきてね。」

「何を言うの？わからない。」

「自分の好きなことでいいよ。」

「好きな食べ物とか？」

「そんなのでいいよ。好きなスポーツなんかでもいいよ。」

始業式の次の日に順番に前に出て考えてきた自己紹介を話します。
新しい集団の中で緊張しながら話をするのは、子ども達にとって、あまり楽しい経験とは言えないでしょう。
へたをするとうまく言えなかったり、心無い発言に傷ついたりします。

「大きな声で言って。」

「考えてこなかったの。」

こんなマイナスな発言をしてしまう教師もいるかもしれません。

子ども達も、自分が話す番が来るまで、考えてきた自分の話を忘れないように気を取られてしまい、友達の話に耳を傾けなくなります。

何のために自己紹介をするのか、これでは台無しです。

それではどうしたらいいでしょう。

やはり、ここはコミュニティボールを作るのが最善だと私は思います。
私の経験では、対話を交わしながらコミュニティボールと一緒に作っていくということは、みんなで学級を作っていくという最初の共同作業としてとても有効でした。

なぜ有効か？

この作業によって、自分の話を聞いて欲しい、みんなの話を聞きたいという探求の姿勢が生まれ、クラスに知的安全が育まれていくからです。

コミュニティボールを作る時の鉄板ネタ。

「今、はまっていること」

これです。

毛糸と巻きつけるもの等を用意して輪になってセッションを始めます。

椅子に座って作るのは子ども達には難しいので、床に座って輪になる方がいいと思います。輪になって話すと、みんなと視線を合わせて安心して話ができる。一人で立って話すのとは全然違う。

自己紹介する子が毛糸を巻きつけ、隣の人が毛糸を出してあげながら、話を始めます。

最初に、ルールを説明します。

「毛糸を巻きつけてボールを作っている人だけが話すことができ、他の人はその子話を聴く。」これがルール。分った？

「それでは、僕から話すね。僕のはまっていることは宇宙戦艦ヤマト2199のアニメを見ることです。実は、僕はアニメが大好きでこれまでたくさん見てきました。なぜかというところ……。」

教師である僕が本当にはまっていることを熱心に話すのです。

先生がアニメなんてというそのギャップをバカにする子もいますが、「へーそんなことでいいんだ。」という安心感を持つ子がいたり、「僕も好きなアニメ・漫画の話をしてしょうか。」と話すことを思いつく子がいたりすることになります。

熱心に話すことが大切です。

教師である自分が話し終わった後に、次の子に回します。

「僕は、サッカーが好きです。ガンバ大阪のファンです。」

多分この子は、こう自己紹介して隣の子に毛糸を渡そうとするでしょう。

そこで、教師は

「どうして、サッカーが好きなの？」 「どうしてガンバが好きなの？」

理由を尋ねます。

それを2・3人すると4人目くらいから自然と

「私は〇〇にはまっています。どうして〇〇にはまっているかというと……。」

というように、理由を入れた話になり自然となります。

また、自分の話すことをあらかじめ考えていないので、友だちが何を話すかを聴いて自分の話す事を見つけようとしたり、話し方のまねをしたりという学びがよく見られます。

友だちの話を聴くことによって、考えが生まれたり、話し方を学ぶことができることを体験を通して学び取ることができるのです。

私語をする子がいたり、順番でない子が話し出したりしたら、

「ボールを作っている人だけが話すことができるのだから話さないでね。」

「聴いてくれてありがとう。」

などとファシリテートします。

「ボールを作っている人だけが話せるのだよ。」

この注意を優しく、丁寧に続けます。

「静かに聴いてもらえるとうれしいでしょう。」

「どうして、ボールを持つ人だけが話せるというルールがあるのかな。」

と声をかけていきます。

輪になって話すということは、教室の前に出て一人で大勢と対峙するとは違います。

隣に人がいるということが話す子どもに安心感を与えます。まして、隣の人が毛糸を出して助けてくれるという行為は、より深い安心感を与えることとなります。

また、毛糸をまくという行為も話すための安心感につながっています。うまく話せなくても毛糸をまいていれば、まだその子は話そうとしているのだということを、回りの子ども達も理解できます。すると、「はよ。言えや！」といったせかす言葉もでてきません。

“Not in a rush”という精神が、行為として学べます。

もし、「はよ。言えや！」という子がいたら、「毛糸をまいているのだから、せかさんところや。」とか「まったろうや。」と声かけをしてあげたらいいと思います。

そんな感じで、ゆっくりと言葉を介してお互いを知る。共感していくのです。

この体験は探求の共同体の第一歩としてふさわしいと考えます。

コミュニティボールの作り方は p4c japan のホームページに詳しく解説されています。

http://p4c-japan.com/about_tool_ball/